

よしの 吉野遺跡

所在地 瀬戸市屋戸町
調査理由 国道 248 号建設
調査期間 平成 14 年 10 月～平成 15 年 2 月
調査面積 2,300 m²
担当者 藤岡幹根・鵜飼雅弘・永井宏幸



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸」)

調査の経過 調査は国道 248 号建設に先立ち、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、平成 12 年度から実施している。過去 2 年の調査では、弥生時代中期の水田跡、古墳時代前期の柵状遺構を伴う自然流路、中世の土坑などが検出されている。瀬戸市教育委員会の遺跡分布地図によると、昨年度までの調査区は吉野遺跡、今回の調査区は屋戸町遺跡とされていたが、関係機関との協議の結果、吉野遺跡の一部として調査を進めることになった。

立地と環境 遺跡は、矢田川（山口川）により形成された沖積地である山口谷の南東部、山口川にそそぐ吉田川の右岸、標高 100m 前後に立地する。今回の調査区は、過去 2 年の調査区の北側に位置する。

調査の概要 本年度の調査は、調査区を南北に縦断する水路を挟んで東側を 02A 区、西側を 02B 区として実施した。

調査の結果、本年度の調査区ではほぼ完結する微高地上に、縄文時代中期後葉から後期前葉を中心とする遺構が展開することが明らかになった。

調査区の現況は水田で、昭和 30 年代の耕地整理により地形が改良されていた。そのため、昨年度までに確認されていた中世の遺構群はほとんどが削平され、02B 区に深い遺構が若干残存する程度であった。

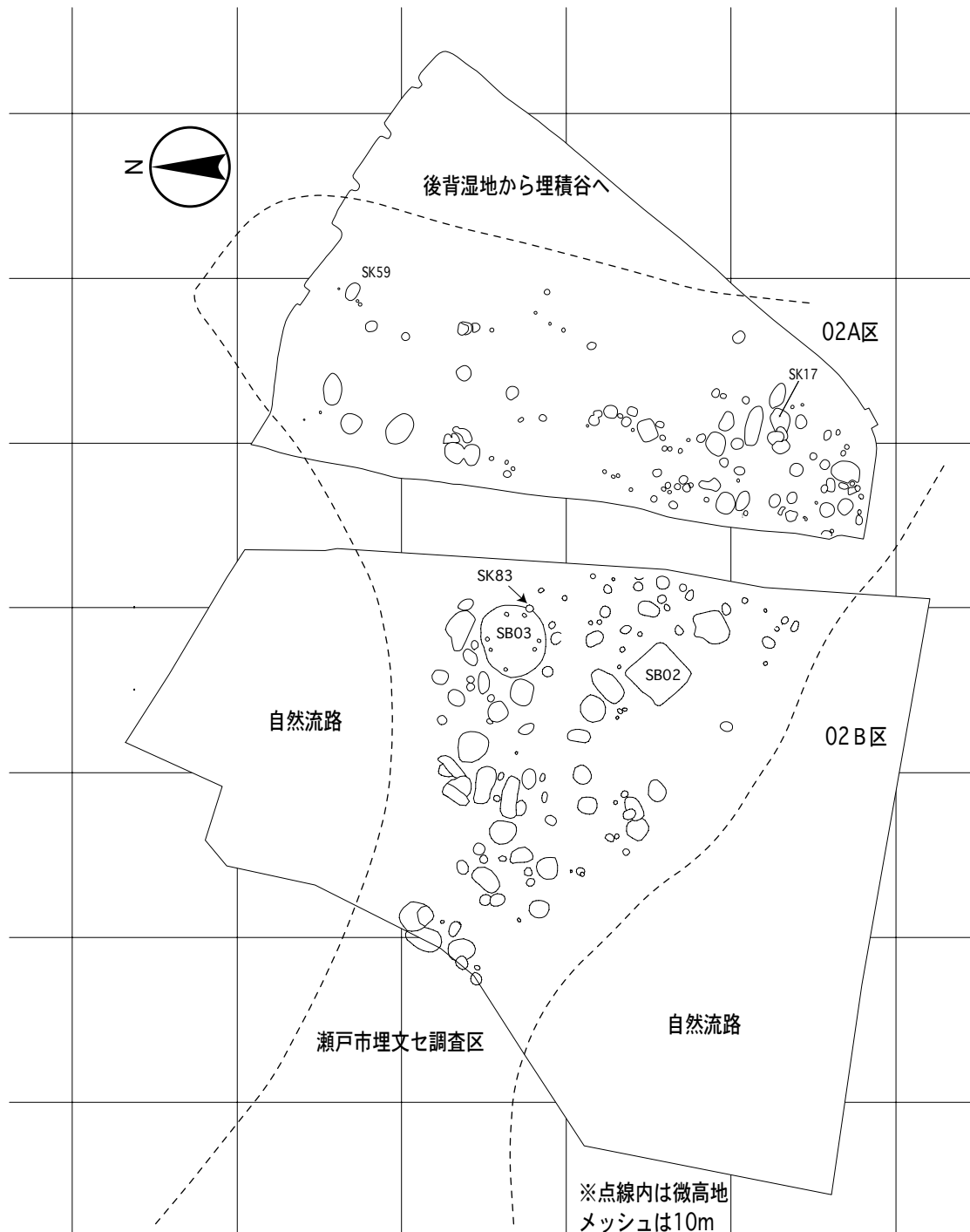
縄文時代の遺構としては、両調査区にまたがって多数検出された土坑群が目立つ。なかには、02A 区 SK17、02B 区 SK83 のように土器が埋設された状態で確認できる遺構が数基含まれる。また、02A 区 SK59 のように破損した石皿など大型石製品が集積した土坑もみられる。土坑内資料はほとんどないが、出土した遺物に、切目石錘や磨製石斧が目立ち、ついでチャート製の剥片が多い。最も注目される遺構としては、02B 区 SB02・03 があげられる。SB02 は 2m 四方の方形プランで中心部に石囲炉をもつ竪穴遺構である。主柱穴は確認できなかったが、石囲炉は被熱痕があり、住居の可能性が高い。一方 SB03 は直径約 3m の円形プランで中心部に炉がない。ただし、主柱穴と考えられる 4 箇所のピットがあり、竪穴住居と考えた。さらに SB03 内および周辺から褐鉄鉱（鬼板の一種）が数ヶ所、赤色塗料の付着した磨石、赤彩された土器片が出土している。したがって、SB03 はベンガラを塗布するための施設であった可能性が示唆できる。

中世の遺構は、02B 区の西側に隣接して実施された瀬戸市埋蔵文化財センター調査区に続く、東西の溝（SD03）や土坑数基を確認した。

また、耕地整理以前まで使用されていた石積の水路を南北方向に 2 条、東西方向に 2 条

確認した。このうち、00A 区の SD01 は現存する南北水路に沿って確認でき、胴木を基礎とした石積の水路であった。

ま と め 本年度の調査成果としては、瀬戸市内では希少な縄文時代中期後葉から後期前葉にかけての遺構・遺物が確認できたこと、さらにこれらの遺構群が約 1,500 m²の微高地上に展開していることがあげられる。そして遺跡の規模や立地、剥片石器・切目石錘の出土から考えて、定住的な居住地ではなく、漁撈活動を中心としたキャンプ地的な性格の居住地を想定したい。 (永井宏幸)



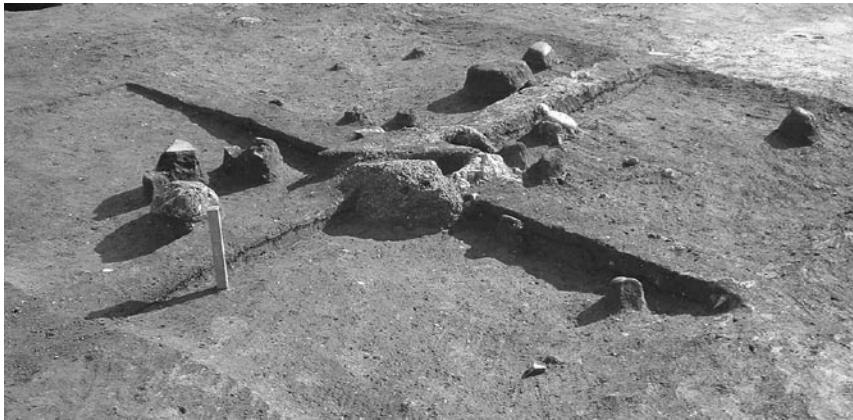
吉野遺跡 02 調査区縄文時代遺構全体図 (1:400)



02A 区 SD01 (近代以降の水路)



02A 区 SK17 (中期後葉の埋設土器)



02B 区 SB02 (中期末)



02A 区 SK59 (石皿などが出土した土坑)



02B 区 SB03 (褐鉄鉱などが出土した後期前葉の円形竪穴住居住居)



02BSX02・03 (近代以降の水路)



02B 区 SK83 (SB03 に隣接する埋設土器)



02B 区縄文時代全景（北西から）



02B 区中世以降全景（北西から）